

TOSHIBA

人・モノ・街のこれからを考える

FUTURE DESIGN

行って、見たい
日本の絶景

VOLUME

75



東芝エレベータ株式会社

人・モノ・街のこれからを考える

FUTURE DESIGN

2024 Vol.75

CONTENTS

03 [特集]

行って、見たい

日本の絶景

14 [連載] 「わっしょいニッポン」

紙芝居屋のガンチャン

(大阪府大阪市)

16 [プレゼント] Something Special

A4サイズの木製フレーム

「piece×peace FRAME」



新社長からのご挨拶

このたび、2月1日に代表取締役社長に就任いたしました。安全・安心を基盤として、東芝グループ経営理念「人と、地球の、明日のために。」を胸に邁進してまいります。引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

東芝エレベータ株式会社
代表取締役社長

鈴木正広

COVER PHOTO

行って、見て、感じる
絶景体験を

宮崎県北部にある高千穂峡は、国の名勝、天然記念物に指定されるV字渓谷。ボートでの遊覧をはじめ「神話の里」として夜神楽やアマテラス鉄道も人気です。



SDGsにつながる取り組み

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（SDGs）には、17のゴールが設定されています。『FUTURE DESIGN』75号では下記の6つのゴールにつながる取り組みをご紹介します。



A4サイズの木製フレーム 「piece×peace FRAME」

『FUTURE DESIGN』75号に対する感想をお寄せください。今回は裏表紙で紹介した「piece×peace FRAME」をご用意しました。アンケートにご回答いただいた方の中から、抽選で10名様にお送りします。



応募締切

2024年7月31日
サイズ：A4（外寸366×279mm、内寸298×211mm、窓寸288×201mm）

応募方法

QRコードまたは下記のURLにアクセスし、アンケートにご回答ください。
<https://wss3.5star.jp/survey/login/mbci6p53>



2024年5月発行

発行：東芝エレベータ株式会社
総務部 総務広報担当

〒212-8585
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
TEL: (044) 331-7001
<https://www.toshiba-elevator.co.jp>

制作：有限会社バース
印刷：株式会社メディア グラフィックス

行って、見たい 日本の絶景

長かったコロナ禍が明けて早1年。インバウンド需要は回復してきているものの、海外旅行はまだまだ控えがち。であれば、国内で絶景を見ながらリフレッシュというのはどうでしょう。見たこともない感動の景色が、日本各地に点在しています。まずは、心の赴くまま、見てみたい絶景を探して、一歩を踏み出してみてはいかがでしょうか。

鹿児島最南端の島「与論島の百合ヶ浜」。中央の白い砂浜部分が百合ヶ浜で、大潮の干潮時にだけ出現します。海岸から1.5kmの沖合にあるため、この写真はドローンでの撮影。与論島では特に何をするわけでもなく、ただ海や星を眺めているだけで癒やされます。

絶景プロデューサー詩歩さんに聞く

心に響く絶景との出会い

その一枚の写真に吸い込まれるように、気付くと、いつか行ってみたいなと思っていたりする。

そんな気持ちになつたなら、思い切つて

絶景の旅に出てみてはどうでしょう。

心癒やされ、思いもよらぬ出会いがあるかもしれません。

詩歩さん

Shiho

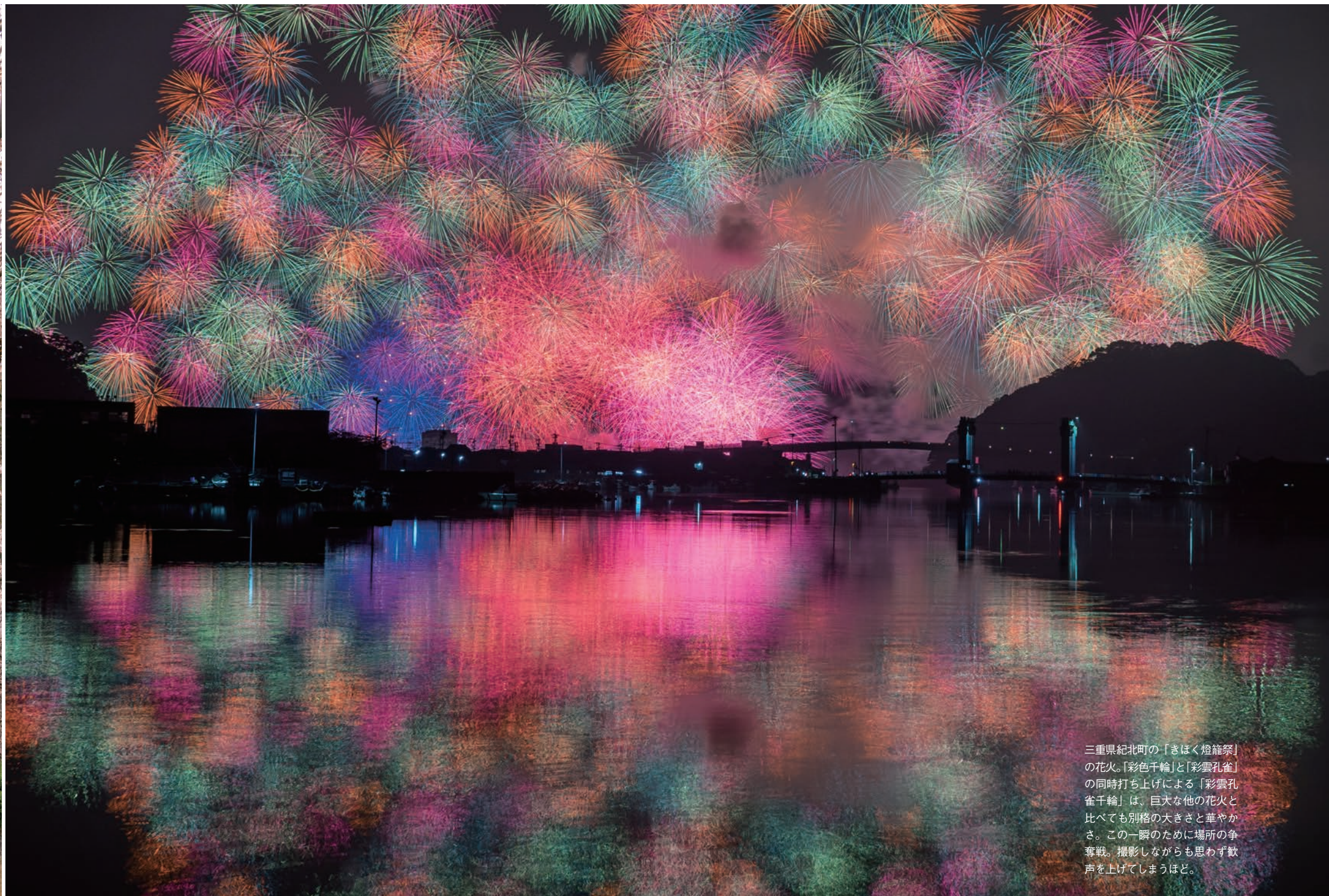
静岡県出身。累計63万部を突破した書籍「死ぬまでに行きたい！世界の絶景」著者で、SNSのフォロワー数は100万人以上。昨今の絶景ブームを牽引し、流行語大賞にもノミネートされた。現在はフリーランスで活動し、旅行商品のプロデュースや自治体などの地域振興のアドバイザーなどを行う。静岡県・浜松市観光大使。
Instagram (@shiho_zekkei) https://www.instagram.com/shiho_zekkei/
YouTube <https://www.youtube.com/user/zekkeichannel>
公式サイト <http://shiho.me/>



静岡市清水区吉原から眺める「富士山」。朝日の時間帯を狙うには夜のうちに移動します。手前の山々と雲海越しに見えるこのスポットには、「富士山大垣吉原」などと検索して車で行くこともできます。雲海は朝晩の寒暖差の大きい春と秋がシーズンのため防寒対策を！



「全国桜名所百選」に選ばれた岡山の名所「津山城」の桜。当時のまま残る石垣の上には復元された備中櫓が。約1,000本の満開の桜並木の中、春霞の夕暮れ時をまるでセッティングしたかのように男女二人が歩いて通り過ぎました。



三重県紀北町の「まほく燈籠祭」の花火。「彩色千輪」と「彩雲孔雀」の同時打ち上げによる「彩雲孔雀千輪」は、巨大な他の花火と比べても別格の大きさと華やかさ。この一瞬のために場所の争奪戦。撮影しながら思わず歓声を上げてしまうほど。

もしました。お金がないので、北海道に行くなら青森も行ったほうがいいなと考えたり、たまに友人と現地で落ち合って現地解散したり、行先もその日決める感じでした。当時はスマホがなかったので、パソコンとMINIを持ってホテルの予約などをするのですが、見つからず途方に暮れたこともありました（笑）。その頃は絶景には興味はなく写真も撮っていないので、記憶の中に残るだけです。

——そこから絶景プロデューサーになったきっかけとは？

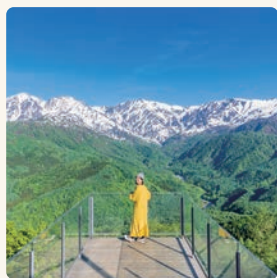
大学卒業後、入社までの間に行ったオーストラリア旅行で、交通事故に遭ったんです。奇跡的に回復して無事入社したのですが、新入社員研修で「各自何かしらインターネットで情報発信してアクセス数を競う」というのがあって。テーマを考えたとき、その少し前に死んでもおかしくない体験をしたこともあり、「死ぬまでに行ってみたい」と思う絶景スポットの写真をネット上で探してはアップしていったんです。実際に行ったわけではないので、いいなと思った写真を、許可をもらって使用させてもらいました。研修後も個人

——絶景プロデューサーとはどのような仕事をされるのでしょうか。

まだ誰も知らないような場所や、もっと注目されてもよさそうな場所で、うまくプロデュースすれば人気が出るだろうなと思う場所を発掘します。季節が違えば景色も変わって見えますから、何度か行ってみたりして、まだ世間に知られていない知識も発掘するのが仕事です。写真も撮るので、目の前のそのままの景色を見るというより、桜の季節はいいだろうなとか、どう見えるかを想像したりしますね。また、その土地の絶景スポットなどを探してほしいと依頼されることもあります。

——普段からよく旅をされていたんですか？

大学に入るまで家族旅行も、まして飛行機に乗ったこともなく、学生時代にバイトでお金を貯めては、行ったことのない土地を旅するようにになりました。今考えると無謀ですが、大学2年の夏休みに初めての海外で1か月一人旅をしたんです。せっかく高いチケットを買って行くのなら長く行こうと、現地のボランティアプログラムなどに参加しました。日本一周



📍 4.長野

白馬マウンテンハーバーの新緑

スキー場のオフシーズンに絶景を楽しめる今話題のスポット。ゴンドラで山頂に着くと、美味しいペーカリーのカフェが。テラスにカメラ台があって簡単に撮影できます。



📍 3.茨城

国営ひたち海浜公園のネモフィラ

チューリップ、バラ、ヒマワリ、コキアなど四季折々の花で有名ですが、全て人の手で管理され、毎年改良を重ねた努力の賜物。遊園地もあり撮影スポットも多いです。



📍 2.秋田

雲昌寺のアジサイ

副住職さんが、一本のアジサイから挿し木で増やし、「見てもらいたい」という思いで育て続けて15年。今や雲昌寺ブルーと呼ばれるその青色にはとにかく圧倒されます。



📍 1.北海道

日の出公園ラベンダー畑

広大な丘陵地にある一面の花畑。背景に青空が写らないこういう場所って実はかなり珍しいんです。さらに、入場無料なのが魅力。景色を堪能しながら撮影できます。

番外編!!

海外でも話題の日本の絶景が!

ニューヨーク・タイムズ紙が発表した「2024年に行くべき52カ所」で山口市が3番目に選ばれ、海外からも日本の歴史ある神社仏閣や地域の祭りなどの文化に注目が。「海外では珍しい花畑や鳥居や寺社など仏教的なものの反応は大きい」と詩歩さん。



📍 7.長崎

白木峰高原の桜と朝日

ご来光の瞬間を狙って多くの方が早朝から待ち受けます。有明海を見下ろす岡の上、菜の花畑に桜の木。公園のように整備もされ駐車場も近いので気軽に撮影できます。



📍 6.愛媛

石鎚山の紅葉

四季を通じて人気ですが何と言っても紅葉がいいです。登山口はいくつかありますが、どこから登ってもこの頂上に辿り着け、日帰り登山ができると人気です。



📍 5.京都

伊根の舟屋群

ここは昔からの漁師町。家の1階が船着き場のようになっています。民宿の魚料理が美味しくて人気。湾から聞こえる静かな波の音が心地いいです。

詩歩さんおすすめ 全国各地の 絶景スポット

絶景の良さは、行ってみなければ分かりません。ということで、日本各地の楽しめる絶景スポットを詩歩さんに紹介していただきました。詩歩さんのSNSも参考にしてみてください!



北海道の中央部、美瑛町にある「四季彩の丘」。まるでメルヘンの世界に迷い込んだような色彩に癒やされる初夏の風景。4月下旬から10月下旬はさまざまな花が楽しめ、冬はなんとスキー場に。広大な園内をトラクターバス(トロッコ号)で巡れます。

でFacebookを立ち上げて続けていたところ、どんどん反響が大きくなり、本を出すことになったんです。それで2014年、出版を機に会社を辞めて、初めてカメラを買いました。そこからは写真がうまくなりたいし、いいカメラもほしくなって、絶景をリサーチしては自分で行って撮るようになりました。

—— 絶景探しや撮影に対する詩歩さんの想いを教えてください。

基本的には、興味があって行きたいと思うところを調べて深掘りしていきます。それと、行けば誰でもそう見えるような距離感の写真を撮りたいなと思っています。狙って粘って苦労することもあります。自分の感動が大事だと思っています。だから、見てくださった方からの「感動した」とか「自分も行ってみたい」という声は、とても嬉しいです。また、絶景を探しに行くには、持っていくモノや段取りなどいろいろなることを考えます。さらに、旅の途中には人との触れ合いがあります。そういうこと一つひとつを楽しみながら、絶景に会いに出かけています。

心理学でも実証！

圧倒される体験がもたらす旅の効能

テレビやインターネットなどで絶景の映像や写真を見ると、やはり実際に見てみたくなるのではないだろうか。となると、「絶景」を見に行くには「旅」がつきもの。そこで、絶景を見に行く旅について、旅の心理学の専門家、立教大学の小口孝司先生に、その効能について話を伺いました。

ストレスを減らす癒やしの「メンタルヘルスツーリズム」

私は社会心理学において、旅がもたらすさまざまな心理的効能について研究をしています。旅の心理的効能は実証されていて、例えば、ストレスが高まると数値が上がるコルチゾールというホルモンの量は、通常の週末を過ごすより、旅行に行った方が低くなります。▼



立教大学 現代心理学部
心理学科 教授

小口孝司さん Takashi Oguchi

長野県岡谷市出身。東京大学大学院社会学研究科社会心理学専門課程博士課程修了後、昭和女子大学助教授、千葉大学助教授を経て2009年より現職。専門は観光心理学、社会心理学、産業・組織心理学。ジェームスック大学客員教授、香港理工大学客員教授などを歴任。Journal of Travel & Tourism Marketingなど国際学術誌の編集者、Asia Pacific Tourism Associationの日本代表などを務める。

また、脈波（心拍）で読み取る別の研究では、メンタルヘルスに特化したホテルに1日滞在するだけで、ストレスが軽減されることが分かりました。このように、精神的健康を維持、向上させることを目的とする、いわば「癒やす旅」を、私は「メンタルヘルスツーリズム」と呼んでいます。

旅行がストレスを軽減する要件はいくつかあると思いますが、まずはストレスの原因から心理的距離を取ることで、日常から離れることでリフレッシュし、リラックスできます。例えば、仕事や人間関係などで悩んでいたとき、「日常の場所から離れてみると、「なんだ、それほど大したことじゃないな」と思えたりします。物理的距離が心理的距離に作用するため、物理的な距離を取れば取るほど心理的な距離も離れていくと考えられます。▼

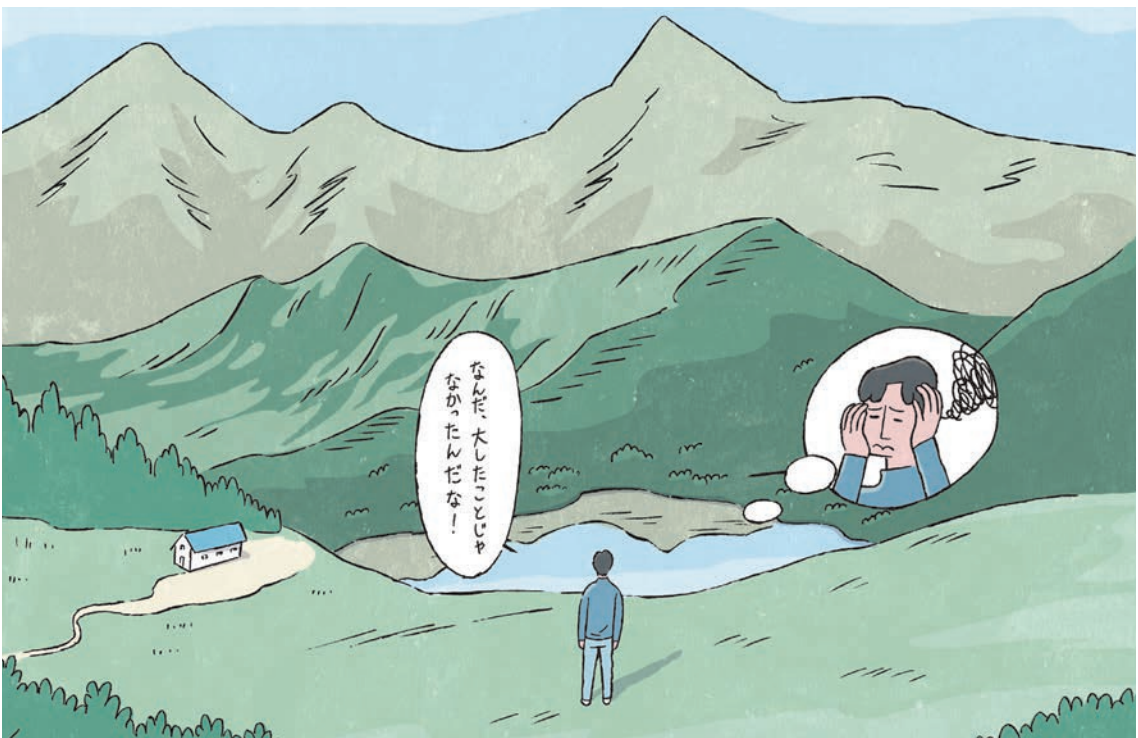
壮大な景色に圧倒されると脳が活性化する

冒険心を満たし能力を伸ばす「ポジティブツーリズム」

一方、旅には冒険心を満たすという目的もあります。例えば、海外や被災地などでボランティアを行ったり、仕事に関係ない乗馬などのアクティビティに参加したりするなど、今までやったことのないことにチャレンジしたり、さらに上達したりすることは、達成感や自信につながります。こういった個人の幸福感、能力、創造性を向上させる、いわば「伸ばす旅」のことを、私は「ポジティブツーリズム」と呼んでいます。メンタルヘルスツーリズム同様、精神的にリフレッシュできることに加え、「できた」という体験によって問題解決への自信が持てるようになり、ストレスにも強くなります。さらに大事なのが、「楽しい」というポジティブな感動。これが思考や行動の幅や認知の柔軟性を高めてくれるのです。仕事での生産性が上がったり新たな考えが浮かんだり、クリエイティブな分

今回のテーマである「絶景を見に行く」というのは、旅に出るきっかけとしてとても効果的だと思います。美しい景色にふれて感動することは素晴らしい体験です。また、もし何か悩みを抱えている場合なども、Awe（オウ）体験といって、壮大な景色に圧倒されることで、自分の存在の小ささを感じ、脳が活性化すると言われています。さらに、このAwe体験を頻繁に経験することで、未来への時間の感覚を持てるようになり、社会性のある行動がとれるようになりますという研究結果も出ています。

ただ、気を付けた方がいいのは、疲労の大きさと最適な旅の距離とは反比例するということです。疲労の度合いによっては遠方への旅は難しいため、すぐく疲れているときは近場のスポットなどでストレッチをして、少し元気が出てきたら少しずつ遠くに行くように、段階を踏むのが大事ですね。

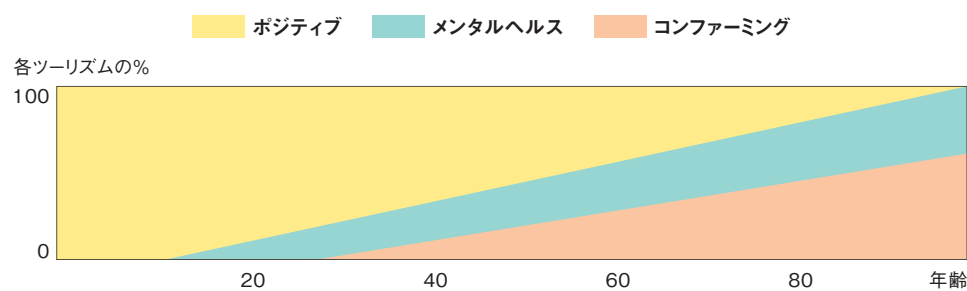


野での効果が認められており、私たちの研究でも創造性や仕事や人生への満足度が上がることが分かっています。

近年、社員旅行が復活してきているのも、企業にプラスに働くことが実感されているからだと思います。調査では、社員を旅行に行かせている企業はそうでない企業より業績がよく、定着率も高く、社員においてはストレスが減り、能力も向上していることが分かりました。

さらに旅行経験が多い人ほど、企業における人事評価も高い傾向があるという研究結果もあります。実は能力の向上というところで旅行も大事なんです。小学生の子どもたちが旅行で海外に行くことでどれくらい能力が伸びるかを調べると、実際に伸びているんです。韓国では家族旅行を教育の一

年代層別に求められるツーリズムモデルの特長



環として推奨していたりします。自身の人生を見つめ確認する「コンファーマーミングツーリズム」

コロナ禍で「不要不急の外出は止めてください」と言われ、旅行は不要不急なものと考えられたかもしれませんが、旅行は必須なものだと思います。「お金があつたらあなたは何をしたいですか」という質問をすると、一番多いのが旅行という結果でした。だから私は、旅は多くの人にとって生きていく上で必要なもの、生活の一部だと思います。

旅と一言でいっても、癒やしの旅もあれば能力を伸ばす旅もあり、その目的や効果は違います。また、最近の私たちの研究で、社会的な交流の範囲や量が減少するシニア層においては、旧友との親交を温めたり家族との絆を深めた

り、自身の人生の意味を見つめるといった「確認の旅」が求められていることが分かりました。これを「コンファーマーミングツーリズム」と呼んでいます。それぞれのツーリズムと年齢との関わりをみると、メンタルヘルスツーリズムは仕事のストレスからの解放を求める壮年層（就労年代）に、ポジティブツーリズムは自身の能力や自信を高める若年層（就職以前）に、コンファーマーミングツーリズムは主にシニア層における旅の特長ともいえ、これらは年齢とともに推移していくことが予測されています。コロナ禍を経て、ストレスは溜まり、疲れもあると思います。こういう時期だからこそ、より一層旅の価値は高まります。どうぞ、絶景を求めて、皆さんそれぞれの旅を楽しんでみてはいかがでしょうか。

「サラメシ」お弁当ハンターの撮影現場。阿部さんが語りかけると一気に場が和みます。



——阿部さんにとっての絶景は？
仕事でいろいろなところに行きますが、例えばスペインとポルトガルの国境辺りで、綺麗なだと思って電車の窓から景色を見ていたら、外からトマトが飛んできたんです。電車めがけてトマトが飛んできては、窓ガラスに当たったり開いてる窓から車内に入ってきたりして「グシャ、ブチュ」。

またあるときは、アラスカ上空で機長が「左手にオーロラが見えます」と言うと、乗客が一斉に左側に寄って機体が傾きましたが、あのときの思いがけない出来事を含めた光景は僕の中の絶景になっています。

それに、普段見慣れた公園に雪が降るだけでも、見たことのない世界かのように感動したりしますよね。そう、行ったアームストロング船長が見た景色も、金メダリストが表彰台の一番上から見る景色も、その人にしか見ることができない絶景なのでしょう。

——記憶の中に残る絶景写真は？
たくさんありますが、面白いところではこれかな。指宿の砂蒸し風呂の撮影に行ったとき、砂の中から顔だけ出しているお客さんの近くに、ところどころに傘がさされていて、その脇を子どもが歩いているんですよ。中は暗いの、なんで傘？と見るとテントにちょっと穴が空いていて、そこから差す太陽の光が眩しいらしく、その光景がなんともおかしくてね（笑）。開かれた素晴らしい景色じゃなくても、自分がびっくりしたり面白って感じたりしたら、もうそれは絶景。あと、その砂をかける仕事ってかなりの肉体労働なんです。で、どんなお弁当かなと覗かせてもらったら、指宿はオクラの産地らしく、一人の方が家で獲れたオクラを刻んでお湯を入れたカップ麺の中に

乗せたんです。それにまた感動してね（笑）。だから僕の中ではそれも絶景。
——重要なのは出会いや特別なエピソードというわけですね？

そうですね、仕事の目的が何でも、結局そこで出会う人たちと話したり一緒に過ごす時間の中で、記憶に残る風景があります。旅の目的は、名所や絶景を見に行きたい、名物を食べに行きたい、何か体験に行きたいなどさまざまあると思いますが、本来の目的以上にそこでの出会いが心に焼き付いていたりするものです。今は情報化社会だから、ネットやテレビで見て、行った気になったりするかもしれませんが、実際行ってみて感じたものが自分だけの絶景になるんだと僕は思います。

アポロで月に行ったアームストロング船長が見た景色も、金メダリストが表彰台の一番上から見る景色も、その人にしか見ることができない絶景なのでしょう。

——最後に読者の方へひとこと！
まずは自分だけの絶景を探しに、一歩を踏み出す旅に出かけてみてはどうでしょう。できればスマホは持たず、なんだったかカメラも置いて行って（笑）。心に感動を刻んで帰ってきてください。



働く手にオクラたっぷりのカップ麺。「栄養を考えて」入れているそう。

写真家 阿部了さんに聞く 僕にとっての絶景

本誌「わっしょいニッポン」や

NHK番組「サラメシ」でもお馴染みの阿部了さん。写真家としての絶景とは何か、お話を伺いました。

——絶景の写真を撮るポイントってありますか？

目で見たときに何かを感じる視野って意外と狭いんです。僕たちが使う標準レンズ（焦点距離50mm前後のレンズ）は人間の視野に近いんですが、望遠レンズや広角レンズなどは、実際に見た印象とは違ってくる面白さがあり



鹿児島県指宿市の砂むし風呂。阿部さんの記憶に残る絶景写真。

ます。カメラの機能に頼るのでなく、いいなと思ったら自分が被写体に寄ってみたり、引いてみたりすることで新たな発見があると思います。最近はSNSなどで見栄えが目的となり、何を感じたのかよく分からない写真が多い気がします。しっかり見て感じてほしいなと。それと旅に出ることもいいですが、日常の中にもたくさんの絶景があると思います。それを見つければいいと思います。私でいえば「弁当」です（笑）

紙芝居屋のガンチャン オリジナルの紙芝居が “超ハッピー”な空間をつくる

お呼びがかかれば、どこへでも。紙芝居を持って参上する。
「人を楽しませることが人生の命題」というガンチャンこと岩橋範季さんに会いに行った。
●写真 阿部 了 ●文 阿部直美

どうこっち側に引き込むか、一枚ずつが勝負なんです

「シルエットクイズ。さあ、これは何でしょーか?」。影絵を前に、そわそわし始める子どもたち。「どんぐり」「柿」と声が上がる。「ああ、確かに見えるなあ」でも違う。大人も子どもも、首を傾げる。「じゃあ、正解は……お相撲さんでした」。愛嬌のある力士の顔に、皆がわーっと笑い出す。その後も、「何でしょう?」の答えが、「逆立ちしているお相撲さん」だったり、「細クネクネお相撲さん」だったりして一同は大笑い。あつという間に、その場の空気が一つにまとまった。パイプ椅子を並べただけの会議室が、突然ワクワクする紙芝居の世界に変わっていく。さすがだった。

「紙芝居屋のガンチャン」こと岩橋範季さんは、自転車の荷台に乗せた紙芝居セットを連れてどんな場所へも行く。この日は、京都の八幡市生涯学習センター主催の、未就学児と親の紙芝居イベントだった。ガンチャンがやるのは、オリジナル紙芝居。この日最後の演目「むかしむかし」は、「ある所に、おじいさんとおじいさんと、おじいさん……おじいさんがいました」。太っちよだったり、意地悪そうだったり、おじいさんばっか



(左) 弟子の「おきやん」の指導をするガンチャン。
(右) この距離感が紙芝居の魅力。聴衆が一つになっている。

りが出てくる。あれ、おじいさんだけの世界? しょっぱなから度肝を抜かれて、笑いがこみ上げる。絵もガンチャンの自作だ。紙芝居の裏面に文字はなく、語りはアドリブ。皆が想像するような読み聞かせスタイルの紙芝居とは違う。

大阪で生まれ育った岩橋さんは、物語好きな少年だった。小学生の時、担任の先生が夏休みに100冊本を読んだ生徒の話をする、岩橋少年は101冊読もうと決意。感想文まで書いた。

「大阪って、勉強ができる」とか「カッコイイ」より「おもしろい」のヒエラルキーが高いのよ」ということで、大阪人ならではのエピソードもある。「高校の卒業式、クラスの学級委員は最初に名前を呼ばれて、代表で壇上に上がる。目立ちますよね。3年で学級委員になろうって2年のうちから決めていたんです。担任には、卒業式の日自分がいなくても、休んでるわけじゃないから名前を呼んでな、とは言っておきました」。そんな話を通じてしまうのが、大阪なのか。「名前を呼ばれて、後ろの保護者席で、はいって返事をして立ち上がったんです。母親の服を着てカッラを被って、女装です。わーって大騒ぎで皆が喜んでくれましたねえ」。男子高校生が1人で店に入り、女性用カッラを買う姿を想像する。当日の朝は、前もって決めていた証明写真機のカートンの中で着替えて化粧もした。「学校の入口をいかに通り抜けるかが、最難関やったな」。人を喜ばせたいという思いの強さは、すでにこの頃から。

脚本家志望で、大学は映像学科の脚本コースへ。その後、アルバイトで入ったピザ屋で店長を任されるまでになるが、20代後半に転職が訪れた。ハローワークで「紙芝居師・月給13万円」の求人を見つけたのだ。その時は採用を逃したが、紙芝居一座を率いていたヤッサンこと安野侑志さんの内弟子にしてもらった。給料は出ないが、師匠の家に住み込みで賄い付き。車の運転、荷物持ち、企画書の作成などをしながら、ヤッサン一座の紙芝居を間近で見てきた。魅了され、半年後に師匠の下を離れて独立。そこからは、独自の道を切り拓いてきた。結婚式では、新郎新婦の物語を紙芝居で披露する。お店の周年記念では、店主の特徴やエピソードをもとにストーリーを作る。そこに加えるのは、ちよつとしたユーモアだ。「絵は下手くそなりに描くうちに、何とかなってきたのかな。映画や演劇ってその空間で没入できるけど、紙芝居は違う。公園みたいな場所であるから、どうやってこっち側へ引き込もうかってことです。まず1枚目が面白くなくちゃいけない。2枚目3枚目の展開も、あつと言わせなきゃいけない。つまり、1枚ずつが勝負なんです」

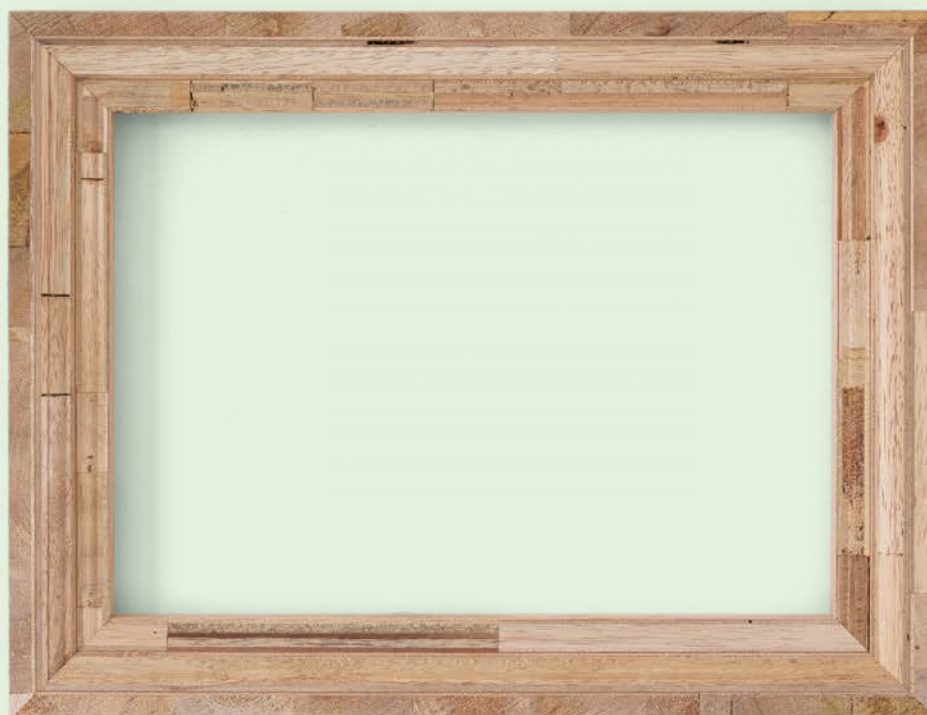
作品のアイデアはサウナの中で。これまで製作した紙芝居は300以上。すでにワクワク空間の岩橋範季さんの事務所にて。

大阪市
西成区
天下茶屋

気になるモノを見つけました

Something Special

23



撮影:矢野紀之

絶景を飾ってみませんか？

A4サイズの木製フレーム 「piece×peace FRAME」

絶景に感動して写真を撮ったなら、撮りっぱなしはもったいない！ 素敵な一点を大きくプリントしてA4サイズのフレームに入れて飾ってみてはどうだろう。しかも、こんな個性的な木製のフォトフレームに。「piece × peace」（木片×平和）と名付けられたこの商品は、デザイナーの山本和豊さ



※写真はサイズ違いのイメージです。

んの作品で、さまざまな樹木の端材を組み合わせたすべてが一点もの。これには、「人種や国境を越えて人々が手を取り助けあうことにより、バランスを持って平和を生み出してほしい」という思いが込められているそうだ。日々の暮らしの中で、感動の記憶を呼び起こせるはずだ。

 合計10名様にプレゼントします。詳しくはP2へ